



センターの名称を変更し、研修事業を大幅にリニューアルしました

千葉大学大学院看護学研究院附属 看護実践・教育・研究共創センター長 ^{わずみ} ^{よしこ}
和住 淑子



世界中が大きな変化の波に飲み込まれる中、当センターの事業も大きな見直しを迫られました。中でも、大きな変革のひとつが、従来の集合型の研修形態を見直し、参加者相互のピア・コンサルテーションを主体とした課題解決型研修へと大幅にリニューアルしたことです。この研修は、これまで当センターをご利用くださった全国の看護系大学教員、看護管理者、中堅看護師すべてを対象とし、オンラインで行うことといたしました。この新しい研修は、当センターの中核事業である「“Society5.0看護”創出拠点ーピア・コンサルテーションを通じて共創する人間中心の健康支援方略ー」と連動させ、デジタル化時代を見据えながら進めていくことにしております。

また、この方針転換に伴い、1982年に設置されて以来、40年近く皆様に慣れ親しんでいただいた「看護実践研究指導センター」の名称を、新事業のコンセプトに即して、本年度より「看護実践・教育・研究共創センター」へと変更しました。新名称は、当センターが提供する機会を活用する全国の看護職やその所属組織が協働して、実践・教育・研究を含む看護学を開発していく拠点という活動理念を表現したものです。

今回の出来事は、これまで当たり前とやってきたことを見直す、よい機会であったと感じています。そして、『実践・教育・研究の良循環を通して、山積する社会的課題の解決に看護学の立場から貢献し、国民の健康の増進に資する』という当センターが大切にしてきたテーマは、一貫して変わらないことも再確認できました。

この時代の変革期に、当センターを利用してくださる皆様が相互に響き合いながら、看護の対象者・家族・スタッフ看護師・看護管理者・看護学生・看護教員・他職種・所属組織・地域それぞれの力を発見し、それらが最もよく発揮された調和的な状態を目指して、創造的な取り組みを続けていくことを支援する拠点でありたいと思っております。皆様のご活用をよろしくお願いいたします。

本センターでは、拠点としての機能強化を図り、看護学教育に関する国内外の動向を共有し、各大学の教育の質改善のため、ホームページでの情報発信はもちろんのこと、個別指導や情報交換できるよう、下記のようなコンテンツ等を配信しております。

- ・FDマザーマップ・支援データベース
(看護系大学のFDを支援するFDプランニング支援データベース)
- ・組織変革型看護学職育成支援データベース
(教育ー研究ー実践をつなぐデータベース)

また、メーリングリストを改め「拠点インフォメーションメール」とし、看護系大学等との連携・協働のための情報発信力向上に努めております。受け付けは随時行っておりますので、担当窓口部署、窓口担当者名を記入の上、件名を「(〇〇大学)拠点インフォメーションメール登録申し込み」とし、kango-cqi@chiba-u.jpまでお申し込みください。



<https://www.n.chiba-u.jp/center/>

“Society5.0 看護” 創出拠点 —ピア・コンサルテーションを通じて共創する人間中心の健康支援方略—

当センターでは、昨年度より、5年間の計画で、「“Society5.0看護”創出拠点—ピア・コンサルテーションを通じて共創する人間中心の健康支援方略—」事業に取り組んでいます。

Society5.0に示されるように、サイバー空間とフィジカル空間の融合による経済発展と社会的課題解決を両立する、人間中心の社会を目指すことが求められています。しかし、これまでの医療分野の発想は、「対象者に何かを提供する」「外から何かを補う」という傾向が強く、自ら力を発揮して生きたい、という人間が本来もつ真のニーズにうまく対応できていませんでした。このような現状を変革しないまま、最新テクノロジーの導入を推進しても、

経済発展と社会的課題解決を両立する、人間中心の社会の実現は難しいと思われます。

本事業では、看護職者のピア・コンサルテーションを通じて、健康支援の質を左右する重要情報を特定し蓄積・活用できるしくみを構築することにより、自らの力を

発揮して生きたい、という人間が本来持つ真のニーズに即して、テクノロジーを人間中心に使いこなす方略を看護学の立場から新たに解明し、それを“Society5.0看護”として創出・発信することを目指します。

【事業概要の説明図】

“Society5.0看護”創出拠点 —ピア・コンサルテーションを通じて共創する人間中心の健康支援方略—

【事業目的】 医療分野におけるSociety5.0の実現に向け、最新のテクノロジーを最良の健康支援に結びつける健康支援方略=“Society5.0看護”を創出・発信する。

【現状と課題】

Society4.0では、経済や組織といったシステムが優先され、個々の能力などに応じて個人が受けるモノやサービスに格差が生じ、さまざまな社会的課題が生まれている

医療分野では

看護職者は、次々と起こる目の前の課題解決のために疲弊
人々の健康支援の質を左右する重要情報の特定・蓄積が遅れ、IT機器等最新のテクノロジーが、最良の健康支援に結びついていない

健康支援の質を左右する重要情報

【取組内容】

第1期:ピア・コンサルテーションを活用した研修型課題解決支援システム構築

健康支援の質を左右する重要情報を特定
最良の健康支援に向けて自律的に課題解決に向かう

ドローンから見ると、自組織や自身の現状とその変化を俯瞰・分析

ピアコンサルテーション

※ピア・コンサルテーションとは、目的を共有し、利害関係のない研修参加者が、グループワークを通して、相互に刺激し支援し合うことを指す

利用者さんは何が一番大切に生活している？
その病院の地域における役割は？

第2期:健康支援の質を左右する重要情報を蓄積し看護実践・看護学教育の改善に活用可能なデータベースの構築

第3期:“Society5.0看護”の創出・発信

研修型課題解決支援システムとデータベースを一体化した“Society5.0看護”創出システムを構築し、最新のテクノロジーを最良の健康支援に結びつける新たな健康支援方略を解明し、社会に発信

最良の健康支援

【事業達成による効果】

- 学術的効果:** AI, IoTが当たり前となる時代に人間中心にテクノロジーを使いこなす、新たな健康支援方略が解明される
- 社会的効果:** 各施設(教育機関・医療機関)の課題解決の軌跡が可視化され、組織の改善や変革の方向性の見定めが可能となり、人間中心の社会実現が促進される
- 大学の教育研究活動にもたらす改修効果:** 急増する看護系大学の教育内容の改善効果により、社会のニーズに即した医療人材育成が行われる

【KPI】

- 現行FD・SD研修から「研修型課題解決支援システム」への移行、利用者数、利用効果
- 健康支援の質を左右する重要情報データベースの構築、データ蓄積数
- 最新のテクノロジーを最良の健康支援に結びつける新たな健康支援方略の発信数
- 本事業に参画した看護職者数、所属施設数、所属施設の多様性

【看護実践研究指導センターの実績】

H28-31 運営費交付金特別経費 「看護学教育の継続的質改善(QGI)モデルの開発と活用促進」
H23-27 運営費交付金特別経費 「看護学教育におけるFDマザーマップの開発と大学間共同活用の促進」
H22-26 運営費交付金特別経費 「教育—研究—実践をつなぐ組織変革型看護職育成支援プログラムの開発」
S57~ 全国向け研修事業 看護系大学教員・臨床実習指導者・大学病院看護管理者養成、実践現場の最新動向集約

“Society5.0看護”創出拠点 —ピア・コンサルテーションを通じて共創する人間中心の健康支援方略— 年次計画

年度	R2(2020)年度	R3(2021)年度	R4(2022)年度	R5(2023)年度	R6(2024)年度
事業フェーズ	第1期 研修型課題解決支援システム構築フェーズ		第2期 データベース構築フェーズ		第3期 “Society5.0看護” 創出フェーズ
取組内容	<ul style="list-style-type: none"> ● 現行FD・SD事業の実施 ● 専門家会議による現行FD・SD事業の評価・分析 ● ピア・コンサルテーションを活用した研修型課題解決支援システム試案の作成 ● システム仕様書の策定 	<ul style="list-style-type: none"> ● 研修型課題解決支援システム試案に基づくFD・SD事業の実施 ● 専門家会議による評価・分析 ● 研修型課題解決支援システム試案の修正 ● 策定したシステム仕様書の修正 	<ul style="list-style-type: none"> ● 研修型課題解決支援システムに基づくFD・SD事業の実施 ● 専門家会議による評価・分析 ● 必要に応じ、研修型課題解決支援システムの修正 	<ul style="list-style-type: none"> ● データベース試案に基づき、重要情報の収集・評価・分析 ● データベース試案の修正 ● 策定したデータベース仕様書の修正 	<ul style="list-style-type: none"> ● 研修型課題解決支援システムとデータベースを一体化し、“Society5.0看護”創出システムを構築し、運用を開始
“Society5.0看護”創出・発信	<ul style="list-style-type: none"> ● 研修参加者の課題解決プロセスの個別分析により、IT機器等最新のテクノロジーが、最良の健康支援に結びついていない現状の構造分析 ● 研修参加者の課題解決プロセスの個別分析により、最新のテクノロジーを最良の健康支援に結びつける健康支援方略の分析 				<ul style="list-style-type: none"> ● 最新のテクノロジーを最良の健康支援に結びつける健康支援方略の解明、発信
事業評価指標	<ul style="list-style-type: none"> ● 現行FD・SD研修から「研修型課題解決支援システム」への移行 ● 「研修型課題解決支援システム」利用者数、利用効果(健康支援の質を左右する重要情報を特定し、最良の健康支援に向けて自律的に課題解決できたかを測定) 	<ul style="list-style-type: none"> ● データベースの構築 ● 蓄積データ数 			<ul style="list-style-type: none"> ● “Society5.0看護”創出システムの構築 ● 最新のテクノロジーを最良の健康支援に結びつける健康支援方略に関する論文等の発信数

課題解決型研修

－看護系大学教員向け・看護管理者および中堅看護師向け－

新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響で、医療機関や教育機関がその対応に追われていることから、昨年度は、例年当センターが提供してきた集合形式での各種研修事業の開催は難しいと判断し、開催を見送りました。対面での研修を実施できない、という想定外の事態に、当初は戸惑いましたが、これを機に、従来の研修形態を抜本的に見直し、本年度から、参加者相互のピア・コンサルテーションを主体とした課題解決型研修へと大幅にリニューアルすることにいたしました。ピア・コンサルテーションとは、利害関係のない研修参加者が、相互に刺激し支援し合いながら、自組織や自身の課題を俯瞰的に見つめなおすことを指します。

本年度より開始した新たな課題解決型研修は、解決したい組織課題を持ち、看護の目的(対象者が自ら力を発揮しながら望む場所で生き、生活することを支援する)を共有している看護系大学教員・看護管理者および中堅看護師を対象とし、すべてオンラインで行うこととしました。

研修では、参加者が少人数グループを形成し、年5回のオンライン・グループミーティングを通して、相互に刺激し、支援し合いながら、自組織や教員自身の課題を俯瞰的に見つめなおす機会を提供します。そして、看護の対象者・看護学生・看護教員・看護職者・所属組織・地域それぞれの力を発見し、それらが最もよく発揮された調和的な状態(ありたい姿・目標像)を思い描き、その目標に向かって課題を解決する方略を検討し、実行するプロセスを支援します。さらに、研修の成果とプロセスにおける教員自身の発展を共有する機会を提供します。

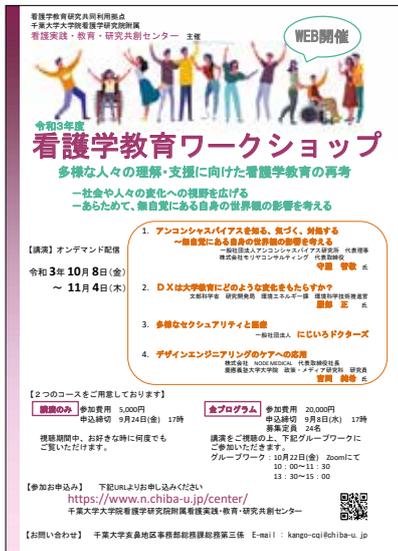
新たな研修で、どのくらいの方々が参加して下さるのか予想がつかず、心配していましたが、嬉しいことに、看護系大学教員33名、看護管理者および中堅看護師49名が、本研修に参加してくださいました。現在、年5回のオンライン・グループミーティングによる課題解決プロセスの途上にあります。すでに、看護の対象者にとっても看護を提供する側にとっても、そして組織や地域にとっても望ましい調和的な解決策を見出し、その実現に向けて主体的な取り組みを開始した研修参加者も出始めています。

今後は、当センターの中核事業である「“Society5.0看護”創出拠点－ピア・コンサルテーションを通じて共創する人間中心の健康支援方略－」事業と連動させながら、研修参加者の課題解決のプロセスから、患者の求める健康支援の方向を決定づける重要情報を特定し、それを効率的・効果的に蓄積できるデータベースを構築する予定です。

次年度も同様に研修参加者を募集する予定ですので、自組織や自身の課題解決に自律的に取り組む意思のある看護系大学教員・看護管理者および中堅看護師の方々のご参加をお待ちしております。



看護学教育ワークショップ



令和3年度看護学教育ワークショップは、昨年度と同様に、COVID-19パンデミックによる感染予防のためにWeb開催となりました。本年度のテーマは、「多様な人々の理解・支援に向けた看護学教育の再考ー社会や人々の変化への視野を広げるーあらためて、無自覚にある自身の世界観の影響を考える」でした。社会や人々の変化がすすみ、多様化している現状において、看護学教育に携わる教員は、それらを十分に捉えて必要な教育を検討できているだろうかと問いかけ、視野を広げ、あらためて無自覚にある自身の世界観が看護学教育に及ぼす影響を考えるとともに、多様な人々の理解・支援に向けた柔軟で創意工夫にあふれた看護学教育について検討することを目的に企画いたしました。実習等の調整や学内演習の工夫等で多忙な状況の中、講演のみの部104名、WEB会議システムを使ったワークを含む全プログラムへ12校から参加を得て、開催されました。

オンデマンドでWEB配信された下記の4つの講演は、多角的な観点から貴重で豊富な内容であり、ワーク時に「講演を聞いて、目からうろこでした。難しいと思い込んでいただけ、いろいろ方法が考えられる。」との声も聞かれ、参加者の今後の取り組みを後押ししてくれたことを確認できました。あらためて、講師の先生方に感謝申し上げます。

- ・「アンコンシャスバイアスを知る、気づく、対処する～無自覚にある自身の世界観の影響を考える」
一般社団法人アンコンシャスバイアス研究所代表理事
株式会社モリヤコンサルティング代表取締役 守屋 智敬 氏
- ・「DXは大学教育にどのような変化をもたらすか？」
前 文部科学省高等教育局専門教育課 企画官 服部 正 氏
(文部科学省研究開発局環境エネルギー課 環境科学技術推進官)
- ・「多様なセクシュアリティと医療」
一般社団法人にじいろドクターズ 吉田 絵理子 氏
- ・「デザインエンジニアリングのケアへの応用」
株式会社 NODE MEDICAL 代表取締役社長
慶應義塾大学大学院 政策・メディア研究科 研究員 吉岡 純希 氏

ワークでは、看護系大学教員が取り組む課題が共有され、地域社会の人口構造の変化、看護職への期待、健康支援を可能とするテクノロジーや組織や地域との連携等が背景とされていました。そこには、テクノロジーを最良の健康支援に結びつける人間中心の新たな健康支援方略の解明へのヒントが潜んでおり、人間中心の新たな健康支援方略の解明や、それに基づく看護学教育に向けて、力を得ることが出来ました。今回の経験を活用し、今後も看護系大学の多くの方々と共に活動を推進していきたいと考えます。



看護学教育研究共同利用拠点
発行 千葉大学大学院看護学研究院附属看護実践・教育・研究共創センター
 〒260-8672 千葉県千葉市中央区亥鼻 1-8-1 U R L : <https://www.n.chiba-u.jp/center/>
 TEL : 043-226-2464・2377 総務第三係(センター研修担当) E-mail : nursing-practice@office.chiba-u.jp